

## 平城宮跡の保護－国家100年の国民的プロジェクト－

平成24年11月

文化庁記念物課長 矢野和彦

平城宮跡は、明治期の棚田嘉十郎や溝辺文四郎といった方々やその遺志を継いだ人々による運動が実り、1922年に「史蹟」となりました。1952年には特別史跡となり、さらに1962年には池田勇人首相により国有化が打ち出され、その後、地元出身の奥野誠亮元文部大臣が、国有化の加速に重要な役割を果たされ、一気にこの壮大な計画が進行しました。

以来、文化庁は、総額約86億5千万円をかけて約109haを国有化し、整備費や除草を含む維持管理費として年間約3億7千万円を確保しています（藤原宮跡を含む）。

文化庁直轄の都城跡は、全国でも平城宮跡と藤原宮跡のみであり、平城宮跡の保護はまさに「国家100年の国民的プロジェクト」といえます。換言すれば、平城宮跡は、市民、県民のものであるのはもちろんのこと、国民全体のものであるわけです。

平城宮跡の整備は、1978年の文化庁の「基本構想」等に基づき、遺構展示、朱雀門（1998年）や東院庭園の復元（2000年）、大極殿の復元（2010年）などが行われてきました。完成した大極殿から朱雀門の方向を眺め、気宇壮大な平城宮跡を既に体感いただいた方も多いのではないかと思います。

これらの努力により2009年までは、25万人程度だった来場者数も、2011年、2012年（見込み）では、40万人を大きく超える来場者を集めています。

現在、2008年の閣議決定に基づき、国営公園化が漸次進められ、2008年の文化庁の「推進計画」等に基づき、国交省により第一次朝堂院の整備（約4.5ha）が開始されており、今後、大極殿院の築地廻廊の復元整備などが行われる予定で、さらなる来場者増を図ることとしています。

文化庁の「基本構想」「推進計画」では、最終形としては、大極殿から朱雀門を結ぶ平城宮跡の中心部分の約1/3ほどが、建物復元及び遺構展示ゾーンとなり、残りの約2/3ほどが緑陰ゾーン、池沼、草園、広場など「緑地」を中心とするゾーンとなっております。

また、奈良県、奈良市などにより、「天平祭」などの事業が行われ平城宮跡の活用に積極的に取り組んでおられます。

さて、最近、第一次朝堂院の整備に対して否定的な意見が新聞紙上等でとり上げられていますが、地元で自然保護活動をされている方、周辺の自治会役員の方、市内でNPO活動をしておられる方々からは、「雑草が生え、雨が降ると泥濘になる中庭を整備して、祭りの場にすることが適していると思います。」、「1300年前の平城京の都を復元していくことに賛成する。」、「草生（くさむ）

した状況を是とすることは短絡的だと感じます。」という意見も寄せられています。

第一次朝堂院の整備の否定的なお考えの根拠として「木簡などの地下遺構の保護」や「自然の保護」などが挙げられております。

今回の整備は、盛り土をしっかりとするとともに、透水性のある土系の舗装となっており、地下水位も2カ所で観測することとなっており、地下遺構には問題のない計画となっています。地下遺構の保護はこれからもしっかりと文化庁が注視しておりますのでご安心いただきたいと思えます。

また、先述のとおり、平城宮跡の国有地109ha全体では、2/3が「緑地」であり、「緑地」は平城宮跡全体としてはしっかりと保護されております。

むしろ、文化庁の買収時に水田や住宅地だった用地について、いまだ手つかずのところも少なくありません。例えば、その結果、セイタカアワダチソウなどの雑草地、荒れ地状態の箇所も多く、そのため、不審火、ゴルフなどの危険行為、不法投棄、不法占拠なども横行しています。周辺住民の方々からは、もっとしっかりと管理してほしい、という声も多く寄せられています。

幸いなことに、大きな事件事故は起きておりませんが、文化庁では、多額の「除草」予算の確保や監視カメラの設置、警備員の増員などに迫られており、地下遺構をしっかりと保存しつつ、平城宮跡を整備していくことは、平城宮跡をこれからも半永久的に保護していく上で必要不可欠と考えています。

文化庁では、世界に誇る国民的な文化遺産として、「遺跡博物館」として位置づけ、「国民各層が古代都城を体験的に理解できる場」としての機能をもつよう段階的に整備を進めることを基本方針としています。このため、復元整備や遺構展示は極めて重要な要素となっております。大極殿が完成し、363万人以上を集めた「1300年祭」が行われた2010年には「不審火」が激減したということもあり「人」が集まる環境を作ることが何より重要でしょう。

もちろん、市民の憩いの場としても重要な場所であることは言をまたず、緑豊かな空間にすることも重要だと考えています。しかしそれは、不法行為を誘発する「荒れ地」ではなく、きちんと「整備」された「緑地」であるべきと考えています。

現在の平城宮跡は、いまだ「整備途上」の姿であり、今後とも、多くの市民、県民、国民のご支援・ご支持をいただきながら、国民のみならず、世界の方々にも古代日本の壮大な「国家プロジェクト」を体感いただけるよう整備を進めてまいります。

まだまだ時間はかかりそうですが、国家プロジェクトとして国有化した平城宮跡の存在意義をしっかりと国内外にお示しすることが、日本を代表する遺跡を全国民からお預かりしている国の責務だと考えております。